



### 受験を感じる 成長を信じる

大学入学共通テスト受付最終日時点での出願者数が50万1981人との発表がありました。また、3年生は今月だけで4回の模擬試験やプレテストを受験しました。受験が近いという実感が日々増えています。

ところで、9歳～11歳は、神経系の発達に伴い、スポーツなどにおいて技術力が大きく伸びるため、ゴールデンエイジと呼ばれます。3年生にも同様の時期があります。10月中旬～12月中旬の約2ヶ月間です。この時期になると、こつこつと積み上げられた断片的な知識が体系的な知識に変化し、問題を解く能力が高まると考えられています。また、授業が受験に向けた演習へと切り替わっていくこの時期は、分からないことが具体化されてきます。解決すべきことが見えるようになり、さらに学ぶ意欲も強くなっていきます。

受験は団体戦です。クラスに目の色を変えて学習する人が増えれば、クラスの雰囲気が変わり、クラス全体の更なる学力向上が見込めます。57期が一丸となって大いに学力を伸ばしましょう。

### 文理選択 — 1年生 —

「1年生の秋時点で成績のよい生徒の92%が文理を決定している」というデータがあります。59期生のみなさんはどこまで考えているのでしょうか。

例えば、「数学が苦手だから文系」といった選び方は避けましょう。まだ2年以上あるからです。どの分野から克服し、苦手分野をどこで補うのか、対応する時間は十分あります。また、文系に進むからといって、数学や理科の学習を疎かにして良いわけでもありません。文系の学部でも入試に数学を課す大学があることや、「文理融合型」の学部学科が増えている現状もあるからです。

『キャリアプランニングノート』の25頁をしっかりと読み込みましょう。81頁のワークも活用して、他者からの情報や自分の考えを見えるようにすると、考えもまとまりやすくなります。ありきたりですが、情報を集め、よく考えることが大切です。

#### ★最新版の「赤本」貸し出しについて

- \* 貸出期間は1泊までです。
- \* 借りた翌朝1限までに返却してください。
- \* 破損等に十分気をつけましょう。

### 志望大学選択 — 2年生 —

今年度中に志望大学を、できれば学部学科まで絞り込みましょう。理由は、来年度の学習に余裕を持つことができるからです。もう少し補足すると、学科まで決まるということは、受験する科目を選ぶということに直結しているからです。2年生の冬のうちに、3月の自宅学習期間に、春休みに、自分の課題に向き合うことができます。「数学が苦手だから、数学の配点が高い大学を避ける」と、志望大学の選択肢を減らすことになります。自分の課題に早く向き合うことで、選択肢を増やしましょう。

また、例えば「英語が好きだから外国語学部/文学部/国際関係学部」という選択も注意が必要です。できれば学科の独自性にも目を向けましょう。英語にどのように関わることができるのか、どのような経験ができるのか、どのようなスキルを身に付けることができるのか。調べ、考える時間は十分あります。

### 入試情報 — 3年生 —

受験に関する最新情報を知ることは重要です。ここでは、共通テストの英語について確認しましょう。大学によってReadingとListeningの配点の比率が異なります。国公立大学では、R:L=100:100が全体の30%程度、160:40が35%程度と異なっています。同じ大学でも、学部によって異なる場合もあります。配点の変更もあります。広島大学では、情報科学(前期A型)受験で、数学600→800点へ、外国語600→400点へと変わります。数学の大幅な強化が必要になっているのです。

学部改組や定員の変更にも関心を持ちましょう。

鹿児島大学 農学部	総合型選抜枠拡大に伴い、前期日程の募集人数が163人→154人に減。
熊本大学 教育学部	学部改組に伴い、230人→220人に減。特に前期日程は177人→161人に減。
九州大学 歯学部	前期定員を45人→37人に減。ただし、学校推薦型選抜の枠を8人設置。

ここでは「減」というマイナスイメージの情報を紹介しましたが、「総合型」「学校推薦型」の枠の増加や、後期廃止に伴う前期募集人数増加などの動きも見られます。自分の希望する大学や学部学科を様々な角度から捉えましょう。受験のイメージを具体化できれば、心にゆとりができたり、引き締まったりすることにつながります。

共通テストまであと78日。頑張れ3年生!

## 「文理選択とお弁当」

1年6組 担任 今井 克哉

岐阜県の教員から鹿児島県の教員になり、半年が経ちました。思えば、4月当初には慣れない鹿児島の言葉（鹿児島弁）やイントネーションに苦戦し、醤油の甘さに驚き、当たり前のように実施されていく朝課外に感心し…色々なことが新鮮で刺激的でした。今でも文化の違いに驚くこともありますが、様々な新しさに慣れてきた自分を実感することも少しずつ増えてきました。鹿児島県に赴任することがなければ、今の自分とはなっていないでしょう。そう考えれば、人生（運命）の不思議さを強く実感します。そして、ちょっとしたきっかけで変わる存在なのだということを思わずにはいられません。

さて、1年生の皆さんにとっては高校に入ってから1番大きな選択、文理選択が近づいてきました。ほとんど決まっている人、まだ迷っている人とさまざまでしょう。文理選択によって人生が大きく変わります。そのような大きな選択に尻込みする気持ちはわかる気がします。ただ、文理選択を考えることは「自分を知る」「自分を考える」ことでもあるのです。自分の興味・関心はどこにあるのか、長所はなんなのか、逆に弱いところはどこか。「自分」を客観的に見つめてみることです。お弁当を例に考えてみると、「唐揚げ弁当」であれば、言うまでもなく「唐揚げ」がウリです。「幕の内弁当」はバランスの良さがウリでしょう。それぞれにウリとなる中心があって、それを前面に押し出さないと売れ残ってしまいます。自分のウリを見定め、それを活かすことができる道を考えるうえでの文理選択がいに決まっているのです。

ただ、自分にウリがいくつもあって選べない…というような人は少ないでしょう。むしろ、「今の自分になかなか自信がもてない」とか「自分にはウリがない」とか後向きな考えが先行する人の方が多くいることでしょう。それでもいいと思います。自分が将来やってみたいこと、もしくはできそうなことは何か。小さい頃からの興味、誉められたこと…。現状、ウリとして成り立つようなものでなくても、卑下する必要などないのです。「私はこれをウリにするんだ」と決意して行動することで道が拓けることもあるのです。これを売り出すためにどうしたら良いかを考えていくことです。

先ほども書きましたが、我々はちょっとしたことで変わることができるのです。あまり考えがころころ変わるのもよくありませんが、文理選択にはまだ時間的に猶予があります。文理選択の最終決定までは、様々な自分の可能性を疑い、様々な未来を予想してみてください。人生100年時代にあって、自分の歩む道を見定めること、もっといえば、自分のことを正しく理解していくことは、今後の人生に大きく影響します。思っている以上に今の時間はとても貴重な時間なのです。忙しい毎日でしょうが、前向きに考えを深めてみてください。文理選択という大きな節目にあって、高校生として、受験生として、そして一人の自分として、自分の核となるような軸を設定し、あるべき姿に自分を近づけていきましょう。

## 「勝つべくして勝つ」

2年4組 副担任 福久高文

「孫子」は二千三百年前の中国の書物です。いかに勝つかということ論じた本です。孫子は次のように言っています。

「五事七法」を将軍が深く理解していれば必ず勝つと。

五事とは「道」「天」「地」「将」「法」の五つです。

先ず「道」とは政治のことで、人民が君主と同じ心になって一丸になることを言います。みんなに当てはめれば、担任の先生を中心に心をついて学習や、行事に取り組むということでしょうか。まとまったクラスは強いです。一の力を何倍にもできます。自分一人ではつけられない力をつけることができます。

次に「天」とは巡り合わせ、運のことです。運も実力のうちです。いや、むしろ大きな部分です。そんなのは偶然でどうしようもないと思うのですが、運を味方につけることはできます。求める強い気持ちが鍵です。求める強い気持ちは運を呼び込みます。今まで数多くの受験生を見てきての実感です。努力する者には必ず運命の女神が微笑みまします。努力もしない者が本番だけ、運良くできる問題に遭遇することはありません。

次は「地」です。敵までの距離とか険しさ高低などです。大学入試までの距離、その難易度、目標の高さ、それを早くから見据えることができれば、勝てるというわけです。志はできるだけ高く持つべきです。行ける大学ではなく、行きたい大学です。今の自分が受験するわけではありません。行きたい大学に今からどうすれば行けるか、そう考えるべきです。そのときに初めて「地」が問題になります。

次は「将」、これは兵を率いる指揮官の素質のことを言っているのですが、誰が将かということ実はみなさん自身が「将」です。では率いるべき兵は？これもみなさんです。自分が自分を率いて戦うのです。「将」の才知、真心、勇気、誇り、これらが将の素質です。みなさんはそれを「将」として身につけ自らを率いて必勝の戦いに臨むこととなります。自分を本気で鍛える事ができるのは自分だけです。兵を強くしなければ滅びるのは結局自分だからです。誰も最終的にはみなさんを助けることはできません。将は自らに真正面から向き合うしかないのです。手持ちの兵は自分しかないのです。

最後に「法」です。法とは制度です。自らを律するに自らの決めたルールに従う。目的を達成するために学校の決めたルールを主体的に選択し直す。なんとなく目的を達成する人は居ません。なんとなくエベレストに登る人は居ないのです。毎日をなんとなく過ごして甲子園に出場したチームなどありません。大学入試も全く一緒です。

更に「七法」とは七つの目算ということです。

一つ、どれくらいクラスがまとまっているか。

一つ、運を味方にできたか。

一つ、受験について深く理解できたか。

一つ、能力が合格のレベルを超えたか。

一つ、ルールを自ずから守れる境地に達することができたか。

一つ、自ら納得するまで自分を訓練できたか。

一つ、正確で客観的な自己評価ができたか。

七つを全てクリアしてみなさんは受験会場に向かいます。

勝つべくして勝つ。それが戦いの王道です。

あせらず あわてず あきらめず

～成功するためには準備こそ大事～

3年4組 副担任 堀 康男

大学入学共通テストまで100日を切り、各大学の総合型選抜入試の実施と結果通知、11月には国公立大学等の学校推薦型選抜入試への出願と受験、そして来年1月大学入学共通テスト本番を迎えるという今年度の大学入試の大きな流れが動き出しました。57期生の皆さんも含めた全国の受験生がこの流れの中で進路実現のため自分の力を一層高め、最大限発揮できるよう努力を積み重ねています。しかし何も考えずにただ学習を続けていく（流され続けていく）だけでは目標に届かないどころか想定外の結果になる場合もあります。とくにコロナ下の入試では緩やかな流れが急に激しくなり、前方に大きな渦が現れてくることだってあるかもしれません。そんな過酷な状況に陥っても自分の力を信じ、ひたすら前に進むしかないのがこの受験の流れになります。この時に大切になってくるのが、動じない心と自分を信じる強い気持ちです。そこで皆さんに「あせらず あわてず あきらめず」という言葉を紹介したいと思います。この言葉は前任校でも受験直前の3年生によく話してきたものです。意味は「努力していてもなかなか成果が現れてこない。イライラがつもの。投げ出したくなってくる。しかしそんな時こそ心を乱さず、地に足をつけて努力を積み重ねたい。あせらず、あわてず、あきらめず。日々の学習の着実な歩みこそが成功への道」というものです。ぜひこの言葉を強く意識して受験当日までの学習に励んでほしいと思います。その結果、皆さんの高い能力の最大限発揮と将来の選択肢が大いに広がることを願っています。

次に受験に向けた準備の話をしていきます。これから必要なことは共通テストで自分の力を最大限発揮できるような日程管理です。具体的に言うと模試を本番に見立てて対策と復習、また次の模試で前回の反省を活かした取組です。まずは10月末に行われる模試から本番に向けての取組を本格化させてください。